

## ★被保険者健康診断 オプション検査について

健康診断に加えて、以下のオプション項目を受診する事が出来ます。

### ◆婦人科検診（自己負担金なし）

※婦人科検診は、乳がん検査と子宮がん検査のセットでの受診が原則ですが、受診できない事由がある場合はどちらか一方での受診も可能です。

#### 乳がん検査

項目	説明文	対象者
乳房超音波検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳房にゼリーを塗り、超音波を発するプローブという器具をあて、その反射波(エコー)を解析し、画像にする検査です。</li> <li>X線を使用しないため被曝の心配が無く、触ってもわからないくらい小さな「しこり」を見つけることができます。</li> <li>乳腺の密度の濃い若年者は、マンモグラフィよりエコーの方が乳がんを発見しやすいこともあります。</li> </ul>	女性 (全年齢)
マンモグラフィ	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳房をX線撮影し、がんの疑いが無いかを調べます。(X線を使用するため、妊娠中の人には適しません。)</li> <li>乳房を挟んで撮影するため、人によっては多少痛みが生じることもあります。</li> <li>乳腺が発達している若い人や授乳中の人、乳腺濃度が高い人は、マンモグラフィではがんが見つかりにくいいため超音波検査が適しています。</li> </ul>	

#### 子宮がん検査

子宮頸部細胞診	<ul style="list-style-type: none"> <li>子宮頸がんは、子宮の頸部(入り口)にできるがんです。</li> <li>頸部の細胞を専用のブラシやヘラなどで優しくこすり、細胞を採取し、がん細胞が無いかを調べます。</li> </ul>	女性 (全年齢)
---------	--	-------------

### ◆人間ドック（自己負担金2,000円（税込））

※肝炎検査を除き、セットでの受診です。（胃部検査はどちらか一方を選択）

眼底検査 (40才以上は定健コースに含まれます)	<ul style="list-style-type: none"> <li>瞳孔の奥にある眼底を眼底カメラで撮影し、眼底の血管、網膜、視神経等を調べる検査です。</li> <li>動脈硬化の程度、高血圧症、糖尿病網膜症等の糖尿病の眼の合併症や、緑内障・白内障の有無を調べます。</li> </ul>	35歳以上
眼圧検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>眼球の中は、房水という液体により圧力が保たれており、これを眼圧といいます。</li> <li>検査は、直接眼に触れることなく、空気を吹きつけて測定します。</li> <li>眼圧が高い場合は高眼圧症、または緑内障(成人の失明原因の第2位)の疑いがあるため、精密検査の必要があります。</li> </ul>	
胃部レントゲン検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>造影剤(バリウム)を飲んでX線撮影し、がんの疑いが無いかを調べます。</li> </ul>	
胃内視鏡検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>口や鼻から内視鏡を挿入し、カメラで直接「食道」「胃」「十二指腸」の様子をみて、がんの疑いが無いかを調べます。</li> </ul>	
腹部超音波検査 (腹部エコー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>お腹に、超音波を発するプローブという器具をあて、その反射波(エコー)を解析し、画像にする検査です。</li> <li>肝臓、脾臓、腎臓の腫瘍の有無、腹部大動脈瘤等の有無、胆嚢や胆管における胆石等の有無を調べます。</li> <li>超音波検査では、超音波が入りにくい部分があるため全域を観察できないことがあり、特に脾臓は奥深い場所にあるため、見づらくなります。</li> </ul>	
肺機能検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>息を吸ったり吐いたりして、息を吸う力、吐く力、酸素を取り込む能力などを調べます。</li> <li>スパイロメーターという機械を用いることが多く、鼻から空気が漏れないようにクリップでつまみ、マウスピースという筒をくわえて、検査技師の指示に従って息を吸ったり吐いたりします。</li> <li>基準値以下の場合、喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺疾患をはじめとする呼吸器疾患が疑われます。</li> </ul>	
肝炎検査(HBs抗原)	<ul style="list-style-type: none"> <li>B型肝炎ウイルス(HBV)に感染しているかどうかを調べます。</li> <li>陽性(+)であっても、必ず肝炎になるとは限りませんが、一部の人に「慢性肝炎」「肝硬変」が認められることがあります。</li> </ul>	
肝炎検査(HCV抗体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>C型肝炎ウイルス(HCV)に感染しているかどうかを調べます。</li> <li>陽性(+)の場合、「現在、C型肝炎である(体内にHCVがいる)」「過去にC型肝炎だった(現在、体内にHCVはいない)」の2つが考えられ、鑑別のため更に詳しい検査が必要です。</li> </ul>	

### ◆脳ドック（人間ドックとセットで自己負担金9,000円（税込））

※脳ドックは人間ドックとセットでの受診です。（脳ドックのみを選択することはできません）

※下記3種類の検査のうち、2種類を受診いただけます。（医療機関により検査方法は異なります）

頭部MRI検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>脳の断面や立体的な画像を撮影します。</li> <li>脳実質の状態（脳腫瘍、脳萎縮の程度、過去に生じた無症候性脳卒中など）を調べます。</li> </ul>	45歳以上
頭部MRA検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>脳の血管を、さまざまな角度から映し出す検査です。</li> <li>脳血管の様子（脳動脈瘤や狭窄、閉塞など）を調べます。</li> </ul>	
頸動脈エコー検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>脳に血液を送る首(頸部)の動脈を、超音波で視覚化できる検査です。</li> <li>脳卒中を予測できる頸動脈狭窄症を見つけたら、動脈硬化の早期発見やその進行具合を把握することに繋がります。</li> <li>脳卒中、認知症の家族歴や喫煙、肥満、高血圧症、糖尿病、脂質異常症などに心当たりのある方には、特に受診をお勧めします。</li> </ul>	

※脳疾患の多くは脳に血液を送る動脈が詰まったり、破れて出血することによって発症します。この原因になるのが、血管狭窄や脳動脈瘤の破裂などです。これらの病変は進行していても無症状であることが多いため、検査による早期発見が有効です。